

甲 第 号

橋本 顕子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲	第	号	氏名	橋本 顕子
論文審査担当者		委員長		教授	上野 聡
		委員		教授	今村 知明
		委員		教授	岸本 年史
		(指導教員)			

主論文

Frontal lobe function in elderly patients with Alzheimer's disease and caregiver burden

アルツハイマー型認知症患者における前頭葉機能と介護負担の関係

Akiko Hashimoto, Kiwamu Matsuoka, Fumihiko Yasuno,

Masato Takahashi, Junzo Iida, Kiyoko Jikumaru,

Toshifumi Kishimoto

Psychogeriatrics

2017年 発行予定

論文審査の要旨

介護負担はうつ状態や睡眠障害、QOL の低下、心疾患の罹患率上昇など介護者に心身の健康障害を及ぼす。前頭葉機能障害は介護負担の予測因子の一つであると報告されていたが、詳細は不明である。そこで、申請者はアルツハイマー型（AD）認知症における前頭葉機能と介護負担との関連性を検討した。大学附属病院精神科あるいは認知症疾患医療センターの診療科を受診した軽度から中等度の AD 認知症患者 30 名の診療情報より認知症評価に関する測定結果を抽出し、介護負担に及ぼす影響について検討した。

その結果、1) 介護負担は前頭葉機能および行動・心理症状、日常生活機能との間に有意な相関を示した。2) 前頭葉機能、中でも前頭葉機能検査の下位項目のうち「葛藤指示」項目が、行動・心理症状および日常生活機能低下とならんで、介護負担に有意な影響を及ぼすことを示した。3) 前頭葉機能検査の下位項目のうち「葛藤指示」項目、介護負担の心理社会的側面に加えて、患者の依存面に対する負担と有意な相関を示した。「葛藤指示」課題の低下は、患者の被影響性や模倣行動の亢進を反映し、患者の介護者への依存心の高まりや、つきまといなどの問題を生じることで介護負担増大に関連する可能性がある。

本研究は AD 認知症の前頭葉機能のうち、特に「葛藤指示」課題の低下が介護負担における心理社会的側面および依存面の予測因子の 1 つであることを明らかにしたものであり、今後の介護負担軽減を目的とする心理教育などの介入に貢献する可能性を示唆しており、有意義な研究と評価される。

参 考 論 文

1. 総合看護学実習における精神看護学領域の実習展開 複数患者受け持ち実習の試み

橋本 顕子, 上平 悦子, 軸丸 清子

奈良県立医科大学医学部看護学科紀要 9 : 32-40, 2013

2. 看護基礎教育における OSCE の効果と課題 学士課程 4 年生への質問紙調査から

滝下 幸栄, 山本 容子, 山縣 恵美, 高尾 憲司, 佐伯 良子, 室田 昌子, 光木 幸子, 橋本 顕子, 真鍋 えみ子, 倉ヶ市 絵美佳, 岡山 寧子

京都府立医科大学看護学科紀要 22 : 95-102, 2012

3. アルコール病棟内断酒会見学実習における実習内容の検討 学生のレポート分析から

橋本 顕子, 山田 京子, 北島 謙吾

京都府立医科大学看護学科紀要 18 : 87-92, 2009

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに高齢者の認知機能に関する研究の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 29 年 2 月 27 日

学位審査委員長

遺伝情報病態学

教授 上野 聡

学位審査委員

健康政策医学

教授 今村 知明

学位審査委員（指導教員）

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史